

在来マス類種苗生産試験

(アマゴ種苗生産配布事業)

團 昭紀・尾田文治

平成6年10月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重4.3g)として4月現在96,000尾を生産した。このうち、平成7年5月に河川放流用として40,000尾、養殖用種苗として35,000尾を有償配布した。

採卵用親魚は、平成5年10月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成7年10月まで飼育した。なお、採卵時における雌親魚の平均体重は400gであった。

採卵には、雌魚1,130尾から850,000粒(1尾平均750粒)の卵を得て発眼卵670,000粒(発眼率79%)を生産した。このうち民間養殖業者に530,000粒を有償配布した。(表1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在2水系が使用され、このうち1号水系は、谷合の表流水を集めて使用し、平成7年4月～平成8月3日における水温は7.1～17.4 の間で変動した。2号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は3.6～21.8 の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。

表1 平成7年度アマゴ生産状況

採卵用親魚(雌)	1,130 尾
採卵用親魚(雄)	1,520 尾
採卵数	850,000 粒
1尾当たりの採卵数	750 粒
発眼卵数	670,000 粒
発眼率	79 %
養殖用種卵(売却)	530,000 粒
春稚魚用発眼卵	140,000 粒
春稚魚用浮上魚	120,000 粒
浮上率	85.7 %